

天に上げられる

ルカによる福音 24:46-53

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「聖書には次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

説教

きょうは母の日でもありますが、キリスト教では主の昇天の祝日でもありません。といっても本当の昇天日は復活の40日後、復活から丸5週後の木曜日（40日=7日×5+5日-1、復活日も1日と数えるのでマイナス1する）ですが、日本では旗日ではないので、便宜的にきょうの主日を昇天祝日としています。

ところで、007とイエス・キリストの共通点はなにか、それは二度死ぬ、です。イエスは十字架につけられて死にますが、三日後に蘇えます。そして、40日後に天に昇り（死ななきゃ天にはいけない）ます。007が二度死ぬようにイエス・キリストも二度死んだ？

最近の日本では家族葬というのがはやっています。身内だけでこじんまりと葬式をするという形式が実際的だということではやっているようです。ところで、イエスの一回目の葬儀はどうだったかということ聖書の証言からすれば、

日本の家族葬のようなものに見えます。野次馬をのぞけば臨終を看取るのは三人のマリアぐらいたし、すぐにニコデモが遺体を引き取り、彼の墓に埋葬するときも少人数で身内だけでおこなわれています。逃げた弟子たちは最初の埋葬には参列していません。それできょうの主の昇天ですがけっこう多くの人に見守られて天に昇られているようです。現代日本の葬儀の形式に密葬、そのあと故人の社会的地位に応じてお別れ会がある、という形に似ているなあと感じます。イエスの埋葬＝密葬、主の昇天＝お別れ会というかたちだけの類似です。もちろん、いまの日本で密葬したあと親しい人に現れて、お別れ会で天に昇ったひとなんかいないでしょう。でも、愛する人が亡くなった直後に夢枕に立ったという体験はときどき聞きますし、火葬の煙を見て空に昇ったという感想を持つ人も多くいます。

主は死に打ち勝って復活されました。そして天に昇られて神の右に座しておられます。これはキリスト教の教理・教義です。ドクトリンでありドグマです。まあ、そんな堅苦しくいわなくても、主は二度死なれた、そしてまた戻ってこられる。一度目は十字架の上で死に、二度目は弟子たちのまえで昇天という形で亡くなりました。この復活の奇跡を喜びをもって信じましょう。そして二度あることは三度ある、約束のとおりによりに再臨されるを待ち望みましょう。
